しまなみ農業だより

きのこ栽培について

きのこ類は、低カロリーながら栄養素を多く含んだ食材として知られています。スーパーに並んでいる多くのきのこ類のほとんどは、木屑を固めた菌床（きんしょう）による栽培が主流ですが、原木を使った栽培ができるキノコ類もあります。

家庭で栽培が可能な種類もあり、今回は原木を使ったきのこの栽培について解説します。

1 原木の準備

きのこの原木栽培ができる樹種の一例を次表にまとめてみました（**表**参照）。きのこの原木は生木（なまき）では菌が成長しないので、あらかじめ切り倒して1～2カ月間乾燥後、扱いやすいように1mほどに切断して日陰でさらに乾燥させます。雑菌の繁殖防止のため原木はできるだけ土に触れないように気を付けます。（図1、写真1参照）。

表　キノコの原木栽培に適した樹種

樹種 / きのこの種類	エノキ	カエデ類	カシ類	クヌギ	クワ	ケヤキ	サクラ類	タラノキ	クルミ
シイタケ			○	◎			○		○
ヒラタケ（ホンシメジ）	◎	○			◎	○	○	◎	○
ナメコ	○	◎	○	○	○	○	◎	○	◎

凡例/◎：適　○：可

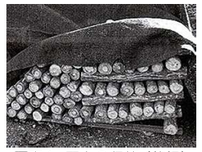

写真1　原木の保管（乾燥）

図1　原木の倒木例

2 植菌の方法

きのこ類の種菌は、種駒（木片）やオガ菌（ボトル入り）の形状で市販されています。植菌（きのこ菌を木に植え付けること）の時期は、3月～4月頃に行います。

①シイタケ

種駒は切断した材木に縦15～20㎝×横5～7㎝の間隔で千鳥に9.3㎜径のドリルで穴をあけて種駒を打ち込みます。種駒数は原木の切口直径の4倍を目安とし、シイタケ菌糸は縦方向に伸びやすいので列数が多くなるように植菌します（図2）。

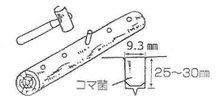

図2　シイタケの種駒植菌方法

②ヒラタケ（ホンシメジ）、ナメコ

原木を厚さ20㎝程度に玉切りした木口に1㎝程度の厚さにオガ菌を塗り付けてサンドイッチ状に3～5段に重ねていく方法です（図3）。植菌前にオガ菌1、鋸くず3、米ぬか1、水2の比率でよく混ぜて混合種菌を作っておくと効率よく植菌が行えます。ただし、最近、店頭でよく目にするブナシメジの原木栽培はできません。

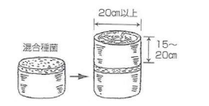

図3　ヒラタケの平ぬり植菌方法

3 植菌後の管理

植菌後は、ほだ木（植菌した木）を1～2カ月程度、日の当たる林地や庭先ではコモをかけて仮伏せ（かりふせ）します。乾き過ぎないように時々散水するなど保湿をして菌糸の活着を図ります。その後、直射日光の当たらない風通しのよい雨の当たる林の中や樹木の下などにほだ木を並べて、本伏せ（ほんふせ）します（図4）。種駒を植菌したほだ木（シイタケ）は10月頃から立ててキノコが発生やすいように組み替えます。平ぬり植菌のほだ木は重ねたままでもきのこは生えますが、固着部をはがして1個づつ上部を数センチ残して土に埋める方法もあります。

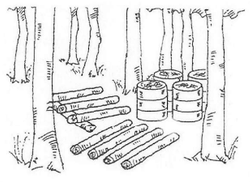

図4　植菌したほだ木の本伏せ

4 さいごに

自然が残る上島町だからこそ挑戦できる原木キノコ栽培です。ただし、イノシシが出没する場所では侵入防止対策を講じる必要があるので気を付けましょう。

火災・救急・救助は

119 消防だより

令和６年度全国統一防火標語

「守りたい　未来があるから　火の用心」

幼年消防クラブ防火パレード

全国秋季火災予防運動（11月9日～11月15日）の一環として、幼年消防クラブ員による防火パレードを行いました。

消防団員と一緒に拍子木を叩きながら、「**火の用心！**」と元気な声で地域の皆さまに火災予防を呼びかけました。これからの季節は火災が起こりやすい気象状況となります。火の取り扱いには気を付けましょう。

消防団・消防本部合同訓練（魚島）

11月13日（水）に上島町消防団魚島方面隊と消防本部の火災対応合同訓練を行いました。

魚島地区の大木集会所において火災が発生したことを想定し、魚島コミュニティプラント敷地内にある水槽から消防ホースを延長し、中継送水による消火活動要領を確認することができました。今後も訓練を継続し、技術向上と連携強化を図って参ります。

消防団長訓示

放水訓練

令和６年11月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R6累計
火災	0	0	0	0	0	0	4
救急	14	10	9	0	0	33	418

（令和６年11月30日現在）

上島町消防署　☎77-4118
上島町消防本部 消防防災課　☎77-3166

共に守ろう　大切な人と　ふるさとを
消防団員絶賛募集中！

消防職員意見発表会で檀上士長が努力賞!

11月15日（金）、久万高原町「久万町民館」において令和６年度愛媛県消防長会消防職員意見発表会が開催され、檀上寛行消防士長が上島町消防本部代表として発表を行いました。

この発表会は、各消防本部から選抜された消防職員が、業務に対する提言や取り組むべき課題について自由に発表し、消防業務の諸問題等について、より一層の知識の研鑽や意識の高揚を図ることを目的として毎年開催されています。

檀上消防士長は「きっかけづくり」と題し、「上司と部下とは」というテーマで意見発表を行いました。その内容や発表態度、表現力が評価され、見事、努力賞を受賞しました。